



三重県立図書館 様

Mie Prefectural Library

OUTLINE

最新の所蔵データをタイムラグなしで提供！！ クラウド型新システムで県内図書館間の相互貸借業務を大幅効率化

USER'S VOICE

井戸本 吉紀 氏 | 三重県立図書館 企画総務課

「近年、高度化するセキュリティへの対応や、サーバ管理が負担になっていました。外部委託でコストを削減し、最高レベルのセキュリティが保証される SaaS 型サービスを採用しました」



課題

- 市町立図書館のコスト・業務負担を減らし、各図書館の蔵書データをリアルタイムで検索・把握したい
- MILAI (注1) を活用している市町立図書館職員のシステム更新への不安や不満を取り除きたい
- MILAI のサーバ管理をアウトソーシングし、管理作業コストを削減、セキュリティを向上させたい

効果

- 横断検索機能とデータ集約型検索機能の併用で、最新蔵書データをリアルタイムで把握可能に
- 色使い、用語簡略化、動作条件の変更など、きめ細かな改善を継続し、不安・不満を取り除いた
- クラウド型システムの採用で、管理コストを削減、セキュリティレベルも向上

SaaS

PaaS

IaaS

DaaS

Network

プライベートクラウド

クラウドを選んだ理由

システムの導入コストおよび保守コストの削減が行える。セキュリティ維持・危機管理業務の低減が実現できる。

採用のポイント

横断検索機能とデータ集約型検索機能を併用できること。

概要

三重県は13年前から、県内の市町立図書館を結んだ MILAI を構築し、「すべての図書館をすべての利用者に」をコンセプトに図書館サービスを展開。県立図書館は、最大週2回の市町立図書館との「物流ネットワーク」と MILAI の検索・相互貸借依頼システムという「情報ネットワーク」を核に県内図書館のハブとして機能してきた。このほど県立図書館のシステムをハイブリッド型へ更新し、県内図書館の最新蔵書データをリアルタイムで把握できる環境を実現。図書館情報ポータル SaaS「Ufinity for Public」は市町立図書館の相互貸借業務の効率化、一般利用者の検索環境の向上、さらには図書館の情報発信の活性化などの成果を生んでいる。

ユーザープロフィール

三重県立図書館

所在地：三重県津市一身田上津部田1234

館長：村井敬生

蔵書数：79万8431冊(平成22年3月末現在)

URL：http://www.library.pref.mie.lg.jp/

User Profile

(注1) MILAI：「三重県図書館情報ネットワークシステム」



(注2) OPAC：Online Public Access Catalogの略称。端末を使ってオンラインで検索することができる図書館蔵書目録のことをいう。

(注3) 総合評価一般競争入札：一般競争による契約に関する公告をし、競争に参加した者のうち、入札価格に加え、性能、機能、および提案を総合的に評価し、発注者にとって最も有利な者を落札者とする契約方式。

新刊書籍や書誌の最新データをリアルタイムで把握したい

MILAIの本格稼働後、MILAIにデータを提供する図書館は年ごとに増え、相互貸借の実績も増加。それに伴い、市町立図書館の所蔵データ更新をいかに早く行うかが課題となった。初代と2代目のMILAIは、すべての市町立図書館の蔵書データをあらかじめ県立図書館の大型サーバにアップロードしておく方式で、各図書館からデータを受け取り、書き換える頻度は月に1回程度。その結果、新刊書籍の情報が1ヵ月遅れで提供されるというタイムラグが生じていた。また、MILAIの検索で目的の資料がどの図書館にあるかは確かめられるが、当該資料が貸出中かは確認できなかった。そのため相互貸借を依頼する図書館職員は、まずMILAIで目的の資料を所蔵する図書館を特定し、さらに当該図書館のWebページで

貸出状態を確認するという二度手間を余儀なくされていた。

ハイブリッド型検索システムの導入実績を評価

これらの課題を解決する方法は、自前でデータを持たず、市町立図書館のWeb OPAC(注2)を参照し、最新データを検索できる横断検索機能を備えたシステムの導入だった。「しかし一気に横断検索機能に移行した場合、まだWeb OPACや横断検索に対応していない図書館に、システム改修などの負担をかけることになります。そこで横断検索機能と、従来のデータ集約型検索機能を併用できるハイブリッド型の検索システムが必要となりました。総合評価一般競争入札(注3)の際、富士通からは他府県のハイブリッド型の実績を示してもらいました」と企画総務課の井戸本吉紀氏は語る。

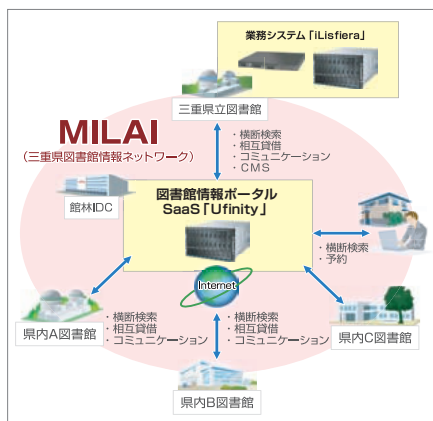
また新システム導入にあたってはサーバのランニングコスト削減も課題だった。同館のサーバールームでは25台のサーバが3つのラックに収まり稼働。「ここ数年、高度化するセキュリティへの対応やデータのバックアップ、周辺機器の管理が負担になっており、富士通からは2つの提案がありました。一つは、個人情報が入っていないMILAIについてはアウトソーシングによるコスト削減と最高レベルのセキュリティが保証されるクラウド型サービスの利用。もう一

つは、個人情報登録されている業務システム『iLisfiera』は引き続き館内に設置し、ブレードサーバを導入してサーバ数を削減することです。」(井戸本氏)。

図書館からの情報発信の活性化にも一役

新システム構築では、10年以上MILAIを活用してきた市町立図書館の不安・不満をいかに取り除くのが最大の課題に。そのため各図書館の担当者にテスト版に触れてもらい、操作画面の色合いを旧システムに近づける、動作条件を変更するなどの意見を吸い上げ、新システムに反映させた。

新システムの運用開始から6ヵ月、井戸本氏はクラウド型システムの導入効果について、「25台あったサーバは9台に。データセンターの高性能CPU、ハードディスクのおかげで検索スピードも想像以上」と語る。そして、電気設備点検などによる県立図書館のサーバ停止の際も、市町立図書館の相互貸借業務への影響を最小限に抑えられるようになった。また図書館同士あるいは全図書館へのメッセージ機能で連絡業務が楽になり、相互貸借業務が円滑化。各図書館からMILAIのポータル画面にイベント情報が書き込まれるなど、情報発信の活性化にも一役買っているという。富士通は自治体図書館と共に歩み、図書館文化の進化をサポートしていく。



詳細はwebにてご覧ください。 <http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/casestudies/library-pref-mie/>

お問い合わせ先

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン

0120-933-200 受付時間 9:00~17:30
(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター